

# 平成30年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	県北教育事務所	学校名	軽米町立軽米中学校	TEL	0195-46-2414
------	---------	-----	-----------	-----	--------------

## 小中連携・中高連携を中心に組織的に取り組む学力保障

### 【今年度の目標】

- ・県学調・全国学調の質問紙調査で、「よく分かる」「どちらかと言えばよく分かる」の肯定的回答が各教科とも、県比100を上回る。
- ・県学調・全国学調の全体正答率で、県比100を上回る。
- ・家庭学習を1時間以上する生徒をどの学年でも80%以上とし、平日のテレビやDVDを2時間以上の生徒を50%以下にする。

### 【組織的な対応を図る上で工夫した点】

- 1 授業実践と互見授業による授業改善の取組
- 2 小中連携・中高連携の取組
- 3 まなびフェストに課題を取り入れた取組
- 4 各種調査結果の分析を行い、事後指導の充実を図る取組

### 【具体的な取組】

#### 1 授業実践と互見授業による授業改善の取組

本校では研究主題を

「主体的・対話的に学ぶ生徒の育成 ～「学び合い、伝え合う」学習活動を中心に～」

として、いわての授業づくり3つの視点(学習の見通し、課題を解決するための学習活動、学習の振り返り)を軸に、生徒同士の学び合いや伝え合いを大切に授業実践を行い、生徒が主体的、対話的に学ぶことができるよう努めている。生徒の学力向上を図るためには、授業改善が最も重要であるため、校内研究を軸として全職員が取り組んでいる。

#### (1) いわての授業づくり3つの視点を盛り込んだ指導案の作成と授業実践

授業改善の視点を明確にして授業実践を行うために、指導案に「いわての授業づくり3つの視点」を明記した(次ページ図2)。これは校内研究の柱となっており、授業研究会でのワークショップ型での意見交流(図1)の視点の明確化や、日々の授業実践での授業改善の視点ともなっている。

特に、「学習の起点となる学習課題の吟味をし、まとめとの整合性を図る」、「学び合い、伝え合う学習活動を指導過程に効果的に位置づける」、「学習の終着点と新たな学習への意欲となる、まとめと振り返りを行う」の3つを意識して授業実践を行い、授業力向上に努めている。

#### (2) 互見授業週間の実施

本校では今年度5回の校内授業研究会を行ったが、それに加え「互見授業週間」を定期的に実施した。設定した1~2週間の間は、どの授業を見に行っても良いこととし、お互いに授業を公開し合って授業改善への意識の向上を図った。授業参観後は、付箋紙にその授業を見て参考になったところを中心に記入してもらい、研究主任が集めて、全職員に提示している。

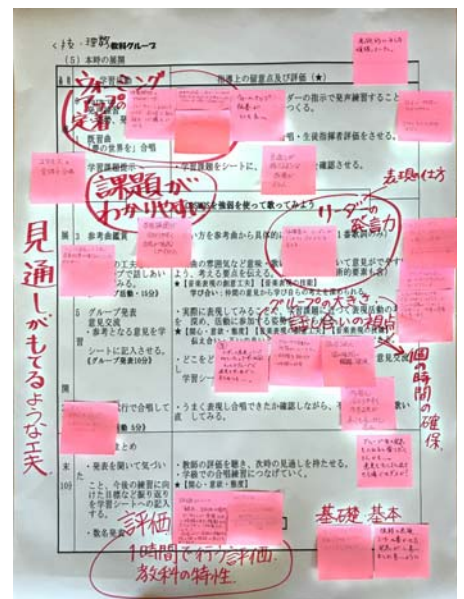


図1 ワークショップの模造紙

(5) 本時の展開                      は本時の研究に関わる手立てや工夫

段階	学習活動及び学習内容	指導上の留意点及び評価 (★)
導入 20分	1. 問題提示 先日の小学校の問題を提示する。	16個の格子点をつないで正方形を作ります。正方形は何種類できるでしょうか。
	2. 問題解決 個人で解決する。	・個別取り組み、全体で確認する。 < 5種類 >
	3. 学習課題の設定 課題を設定する。	・小学校の問題に、さらに「それぞれの正方形の1辺の長さを求める」問題を追加する。
展開 25分	面積が $2\text{cm}^2$ の正方形の1辺の長さを求めてみよう。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめで整合性のある学習課題</span>	
	4. 問題解決のための考察 実際に計測した長さをどのようにすれば確かめることができるか確認する。	・正方形の面積を求める式は $(1\text{辺}) \times (1\text{辺})$ 、つまり、 $(1\text{辺})^2$ であることを確認し、実際に計測した長さで計算する。
	5. 課題追求 ペアで電卓を用いて、長さを求める。	・ペア・グループ内で交流、協力しながら、正方形の1辺の長さを求めていく。 ・正方形の1辺の長さを求めようとしている。 ★【数学への関心・意欲・態度】
	6. 課題解決 具体的な長さを求められないことを確認する。 新たな記号 $\sqrt{\quad}$ を用いて表すことを理解する。	・これまで学んできた数では表せないことを理解する。 ★【数量や図形についての知識・理解】
	7. まとめ 面積が $2\text{cm}^2$ の正方形の1辺の長さは $\sqrt{2}$ (ルート2) cm ・ $\sqrt{2} = 1.41421356\dots$ と限りなく続く小数 ・ $\sqrt{2}$ は2乗して2になる数 ・ $\sqrt{\quad}$ …根号	・7の内容を本時の学習の課題のまとめとする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめで振り返り</span>
	8. 確認・定着 面積が $5\text{cm}^2$ の正方形の1辺の長さは $\sqrt{5}\text{cm}$ であることを確認する。	・実際に電卓で $\sqrt{5}$ の近似値について調べて、理解を深める。
	9. 発展 今回学んだことが、高校にどのようにつながっていくのかを学ぶ。	・高校の先生に実際に高校で習う内容について、触れていただく。(三乗根や虚数、実数に関する内容)
	終末	10. 振り返り ・新しい数の概念

・「なぜ」「どうして」を大事にした学習課題(学習問題)を設定し、この時間で、何ができるようにすればよいか、何がわかればよいかという「本時の学習の終着点」をつかませる。

・自分の考えをもって、ペアやグループ・全体での学習に臨み、自分の考えを発表したり友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたり、わからないことは、自分で調べたり友達や先生に質問したりさせる。  
・一人一人が学習課題を解決するために、学習課題について、「学び合い、伝え合う」学習活動を通して深まったり広がったりした内容を、みんなで発表し合い、理由や根拠がわかるように記述したり話したりする。

・学習課題のまとめを「学び合い、伝え合う」学習活動を踏まえて、自分の言葉でまとめさせる。  
・授業を通して、できるようになったこと、できなかったこと、わかったこと、わからなかったこと、興味をもったことなどについて、自分の言葉で振り返らせる。  
・評価問題を解いたり身に付いた力を確認したりして、学習の成果を実感させる。  
・どのような学習プロセスによって自分がどのように変容したのかなどについて、自分の言葉で説明させたり、「友達から学ぶことができた」など、学習活動の良さを実感したりさせる。

図2 いわての授業づくり3つの視点を明記した指導案

## 2 小中連携・中高連携の取組

### (1) 軽米町内の小中連携の取組

軽米町内には小学校3校、中学校1校があり、年間を通して多くの場面で連携した活動を展開している。

小中学校では、学習や読書の時間・質の向上を目指し、生徒会の委員会活動でノーメディア運動に取り組んでいる。隣接する軽米小学校と連携し、「ノーメディアふれあい標語カレンダー」(図3)を作成し全家庭に配るとともに、全教室に掲示し、メディアに関する意識の向上を図っている。また、町内の他校で開催される授業研究会、ICT活用研修会などに参加し、お互いに授業力の向上に努めている。

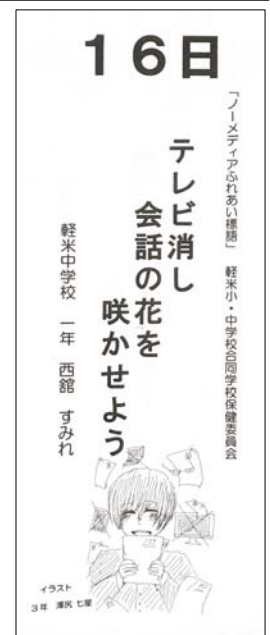


図3 ノーメディアカレンダー

今年度は、軽米小学校と連携し、特に授業での「振り返り」の取組を充実させていくことを共通確認して取り組んできた。本校では、これまでの調査で「振り返り」に関する質問事項への肯定的回答が低い傾向にあったため、振り返りシート（図4）や振り返りノートなどを活用し、全教科で取り組んだ。また、家庭学習の仕方について、中学生の見本ノートを小学校に提示して、小学生の参考にしてもらえるようにした。

単元名		第5章		相似な図形		3年 組 番 氏名	
時	月	日	曜	学習内容	挙手(回)	振り返り(分かったこと、活用したいこと、これから頑張ること)	チェック
1h	11	2	金	相似な図形		相似の意味がわかった。 相似の性質を理解することができた。 図形を2倍、3倍...に拡大すると、角の度数も変えなさい。大事なところは変えなさい!	(内田)
2h	11	6	火	相似比		三角形や四角形をみながら書くといいわ。 だけども、角を書くと全部相似になるのか すごいと思った。復習し、かりある! 内田の他にもこのように書いてほしい	(内田)

図4 振り返りシート(3年数学)

(2) 軽米町内の中高連携の取組

軽米町内には中学校1校、高等学校1校があり、18年目に入った連携型中高一貫教育で軽米高校と連携を図っており、例えば数学、英語で週1回の交流授業を実施している(図5)。交流授業では、TT指導を中心に生徒にきめ細やかな学習指導ができるようにするとともに、軽米高校入学前から高校の先生と交流することで、生徒と教師の相互理解ができています。また、数学では中学校から高校につながる学習内容を詳しく説明していただいたり、英語では高校の先生主導でディベート授業を行ったりするなど、質の高い授業を行っている。



図5 中高英語交流授業の様子

特に、平成29年度は「岩手県算数・数学教育研究大会」が本校等で開催され、中高の教員がTT授業で授業公開を行うなど、密接な連携を展開した。

3 まなびフェストに課題を取り入れた取組

学校として、組織的な取り組みを行う上で基本となるものとしてまなびフェスト(図6)がある。特に前年度の各種調査結果を受けて、落ち込みが見られる内容や向上させたい内容を重点として、全職員で取り組んでいる。今年度は、①学調で県平均を上回る、②英検合格率1年5級85%、2年4級65%、3年3級50%、漢検合格率1年5級60%、2年4級50%、3年3級40%の達成、③学校評価アンケートで授業がわかる割合90%以上、④家庭学習(読書を含め)1時間以上の生徒80%以上に取り組んだ。まなびフェストについては、生徒はもちろん、各家庭にも周知し、互いに連携しながら学力保障に努めている。

実践への具体的な方策と目標値		★印は30年度重点、下線印は29年度より目標を高めた。斜体印は29年度未達成。	
学力向上	感動の創造	豊かな心	地域連携
<ul style="list-style-type: none"> <li>●「3つの視点」に基づいた授業改善</li> <li>●「学力保障の取組先進実践」の取組</li> <li>【目標値】学調で県平均を上回る</li> <li>●中・高連携による学習指導</li> <li>●学び合い、伝え合いのある授業実践</li> <li>●目標値を設定した授業(英検、漢検)</li> <li>【目標値】&lt;英検&gt; &lt;漢検&gt; 1年(5級85%) (5級60%) 2年(4級65%) (4級50%) 3年(3級50%) (3級40%)</li> <li>●家庭学習とリンクさせた授業</li> <li>●魅力ある授業の創造と研修の充実(ICTを活用した授業、TTの実践等)</li> <li>【目標値】学校評価アンケートで授業がわかる割合90%以上</li> <li>●自己実現を目指した意欲的な学習習慣の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●と感動を深める二大行事の推進(体育祭、文化祭)</li> <li>●情と学びを深める宿泊行事の推進(修学旅行、宿泊研修)</li> <li>【目標値】行事や宿泊研修で充実感や感動を覚える生徒が90%以上</li> <li>●機能的な社会参加活動(ボランティア活動)の実践</li> <li>●校の境の壁を突き出す機会活動の実践(全校集会、生徒委員会)</li> <li>●数や花壇の平入れ等の勤労体験活動としての生き方、自らの在り方を考え(キャリア教育、復興教育等)</li> <li>【目標値】自己の生き方を考える生徒が80%以上</li> <li>●成31年度前半県中学校総合文化祭に合わせた計画・準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自尊感情や自己有用感を高める生徒指導と学年・学級経営の充実</li> <li>●特別な支援を必要とする生徒一人一人への指導の充実</li> <li>【目標値】学校が悩んでいるものの解決に努めていると答える生徒が80%以上</li> <li>●健康教育の推進(心の健康、体の健康、学校保健委員会の開催)</li> <li>●部活動の活性化と個性を養育する場面の開拓と振興</li> <li>●学校行事、生徒会活動、部活動を通じた主体的な規範意識の醸成</li> <li>【目標値】進んで挨拶ができる生徒が80%以上</li> <li>●読書の取り組み</li> <li>【目標値】毎月1冊以上(年12冊以上)読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校からの積極的な情報発信・情報提供(校報、ホームページ、一斉メール送信システム等)</li> <li>【目標値】校報30号以上の発行</li> <li>【目標値】ホームページの充実と毎週1回以上の更新</li> <li>●PTA活動の一層の充実(楽しめる行事の企画・実施等)</li> <li>●地域行事への積極的参加(町民体育祭、町内一斉清掃への全生徒参加等)</li> <li>●積極的な学校公開(体育祭・文化祭等行事、授業参観)</li> <li>●外部評価の推進・活用(学校評価委員会、PTA役員会)</li> <li>●PTAと生徒会の協働作業実施</li> <li>●保護者や地域の教育力の活用</li> </ul>
<p>保護者・家庭においこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学習習慣を身につけること</li> <li>●努力を認め、励ますこと</li> <li>【目標値】家庭学習(読書を含め)1時間以上の生徒が80%以上</li> <li>●子どもの話を傾け、興味深く話すこと</li> <li>●行事や学校の出来事について話し合うこと</li> <li>【目標値】行事や学校の出来事について話し合う家庭が90%以上</li> <li>●食事や睡眠・衛生などの基本的な生活習慣を身につけること</li> <li>【目標値】テレビ、ゲーム等が2時間以内の生徒が50%以上</li> <li>●学校・保護者が協働で教育現場を豊かにすること</li> <li>【目標値】学校行事、PTA活動への参加率年3回以上が80%以上</li> </ul>			

図6 平成30年度まなびフェスト

#### 4 各種調査結果の分析を行い、事後指導の充実を図る取組

##### (1) 「新入生学調」、「全国学調」、「県学調」の分析と事後指導

各学年の調査結果を受け、教科担任が分析を行い、学び直しが必要な指導内容を確認し、事後指導に生かした。また、調査結果や分析結果を共有する校内研究会を行い、全職員が共通認識で指導に当たれるようにした。その後、指導主事の助言をいただくことで、事後指導や授業改善につながる視点を焦点化した。

また、事後指導では落ち込んでいる学習内容を意識し、授業の中で学調の問題を振り返り問題に取り入れたり、定期テストの問題に取り入れたりして、補充指導や今後の指導に生かすようにした。

##### (2) 生徒の実態を把握するための全校質問紙調査の実施

例年行っていた学習に対するアンケート調査の内容を見直し、学習定着度状況調査で行われている質問紙調査の内容を吟味した「軽米中学校生徒質問紙調査」(図7)を作成し、継続的に実施している。全職員が調査結果を共有し、同じ視点で授業や学習指導に取り組んだ。

○生徒質問紙調査		年 組	番 氏 名
Q1: 1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。	1 4時間以上 2 3時間以上4時間より少ない 3 2時間以上3時間より少ない 4 1時間より少ない		
Q2: 1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。	1 4時間以上 2 3時間以上4時間より少ない 3 2時間以上3時間より少ない 4 1時間より少ない		
Q3: 1日にどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで電話やメール、インターネットをしますか。	1 4時間以上 2 3時間以上4時間より少ない 3 2時間以上3時間より少ない 4 1時間より少ない		
Q4: 学校の授業以外で、1日にどれくらいの時間、勉強をしますか。	1 2時間以上 2 1時間以上2時間より少ない 3 30分以上1時間より少ない 4 全くしない		
Q5: 家で勉強する内容は、次のどれが多いですか。	1 宿題だけ 2 宿題のほかに復習をする 3 宿題のほかに予習をする 4 勉強していません		
Q6: 普段の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない		
Q7: 普段の授業で、目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか。	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない		
Q8: 普段の授業で、個別に学習内容を振り返り活動をよく行っていると思いますか。	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない		
Q9: 普段の授業で、いろいろな資料を使って発表する活動を行っていると思いますか。	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない		
Q10: 字級の変遷との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない		
Q11: 国語の勉強は好きですか。	1 好き 2 どちらかといえば好き 3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない		
Q12: 国語の授業の内容はよく分かりますか。	1 よく分かる 2 どちらかといえば分かる 3 どちらかといえば分からない 4 分からない		
Q13: 数学の勉強は好きですか。	1 好き 2 どちらかといえば好き 3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない		
Q14: 数学の授業の内容はよく分かりますか。	1 よく分かる 2 どちらかといえば分かる 3 どちらかといえば分からない 4 分からない		
Q15: 社会の勉強は好きですか。	1 好き 2 どちらかといえば好き 3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない		
Q16: 社会の授業の内容はよく分かりますか。	1 よく分かる 2 どちらかといえば分かる 3 どちらかといえば分からない 4 分からない		
Q17: 理科の勉強は好きですか。	1 好き 2 どちらかといえば好き 3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない		
Q18: 理科の授業の内容はよく分かりますか。	1 よく分かる 2 どちらかといえば分かる 3 どちらかといえば分からない 4 分からない		
Q19: 英語の勉強は好きですか。	1 好き 2 どちらかといえば好き 3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない		
Q20: 英語の授業の内容はよく分かりますか。	1 よく分かる 2 どちらかといえば分かる 3 どちらかといえば分からない 4 分からない		

図7 軽米中学校生徒質問紙調査

#### 【成果】

- ・年度当初に、教職員で「まなびフェスト」や「確かな学び、豊かな学び」実現プランの共通理解を図り、目標達成のために重点として取り組むことを確認することで、組織的な取り組みができた。
- ・授業実践と互見授業による授業改善に取り組むことで、県学調の質問紙調査で、「よく分かる」「どちらかと言えばよく分かる」の肯定的回答が、県比100を上回った教科は8教科、下回った教科は2教科であった。

	1年(県比)	2年(県比)
国語	109.6	108.2
数学	108.3	102.8
社会	97.7	108.8
理科	94.6	115.0
英語	107.1	120.3

- ・各種調査結果の分析を行い、事後指導を充実させていくことで、県学調・全国学調の全体正答率で、県比100を上回った教科は、1年国語、2年数学、理科、英語であった。他教科も若干下回る程度か、昨年度よりも上昇傾向が見られており、全体的に向上してきた。
- ・一昨年度の学校公開研究会の研究主題に継続して取り組んでいることにより、全職員に授業改善の視点が定着しているとともに、互見授業などから職員の助け合いや連帯感が高まってきている。
- ・小中連携・中高連携の活動を意図的・計画的に数多く行うことにより、12年間の系統的・継続的な指導の中で学力向上や生徒の健全育成が図られている。それに伴い、生徒の笑顔や学校とPTAの一体感も多く生まれてきている。